

令和2年3月15日
釜石市教育委員会
釜石市鈴子町15-2
TEL 22-8832
FAX 22-3633

かまいし

令和元年度 第42回釜石市教育研究所研究発表大会

「社会を強く生き抜く力の育成を目指して」

1月9日(木)、令和元年度第42回釜石市教育研究所研究発表大会が開催され、こころの教育研究班・授業づくり研究班・学級づくり研究班・幼保小連携推進委員会それぞれの発表・協議を行いました。市内小中学校、高等学校教職員その他、市内の幼稚園、こども園、保育園、PTA関係者も含めて計220名が市民ホールTEETTOに一堂に会しました。

「こころの教育研究班」は、「みとめあい、みがきあう」授業実践を通して、研究テーマ「主体的によりよい生き方を目指す子どもの育成」みとめあい、みがきあう道徳授業を通して「に迫りました。発表者からは、児童生徒が主体的に道徳的価値について思考を深めるためには、発問がとて大切であり、「発問の立ち位置・4区分と多面的・多角的思考」を参考に「みとめあい、みがきあう」授業に迫ることができたといった成果が出されました。また、「心のものさし」の活用や話合いの形態の工夫等、具体的に、市内教職員の実践につながる発表となりました。

《所感用紙より(こころの教育)》

・ 授業者が児童・生徒の実態を把握し、ねらいを明確にした上で、思考を耕すための発問の工夫、可視化等、教具・掲示物の工夫により意見交流の内容が深まり、多面的・多角的思考が培われる授業実践が展開されていたと思います。

「授業づくり研究班」は、研究テーマを「主体的・対話的で深い

学びにつながる授業のあり方」児童生徒のつまずきに対応した指導を通して「とし、「いわての授業づくり3つの視点」を踏まえ、諸調査等の結果分析のあり方と児童生徒のつまずきを生かした授業の組立てについて研究を進めました。分析から明らかになったつまずきを授業改善にどうつなげていけばよいか実践的な発表となりました。

《所感用紙より(授業づくり)》

・ レディネステストが中心で、その補充をしながら授業に入ることが多いですが、つまずきをみんなで確認し、共有することの大切さがわかりました。諸調査の結果から、どうしてできなかったのかを確かめ、授業に生かしたいと思いました。

「学級づくり研究班」は、研究

テーマを「児童生徒の自己肯定感を高める学級づくりの研究」児童生徒同士のかかわりを深める活動の工夫を通して「とし、学級の様子を自己評価し、共有する場を設定して、話し合いを行い、その結果を実践する場を保障するRIPDCAサイクルでの学級づくりについて発表を行いました。自己肯定感を高めるために、「やる気」、「成功体験」、「自信」、「役に立つ」をキーワードにしなが、肯定的な声かけを行うことができたこと、また、児童生徒同士がお互いを認め合うようなメッセージなどにより、自分が学級で役に立っているという所属感から自己肯定感を高めた児童生徒が見られたという成果が共有されました。

《所感用紙より(学級づくり)》

・ 課題点の話合いの出させ方がとても参考になりました。子ども達は「ダメ」な部分は見つけることができますが、よく雰囲気暗くなるということがありました。「～するとよくなりそう」という話し方になると、温かい話合いの場になると感じ、ぜひやってみたいと思いました。

「幼保小連携推進委員会」は、

テーマを「互恵性のある幼保小連携のよりよい在り方を探る」子どもの発達や学びの連続性を捉えた交流のあり方」とし、幼保小の教員が互いの保育や授業を参観することを通して相互理解を深めるとともに、年長児と小学一年生とのよりよい交流のあり方についても探りました。今年度は、市内各保育施設からも推進委員としての参加があり、縦のつながりだけでなく、横のつながりも意識して研究を進めることができました。幼保小連携の上で大切にしたいことや教師の役割とよりよい交流のあり方に迫った発表となり、各校で作成した「スタートカリキュラム」についても改めて考える機会となりました。

《所感用紙より(幼保小連携)》

・ 小学校は園でどのように過ごしてきたのか、園では小学校でどのような活動につながっていくのかが分かるようになり、円滑な経営へとつながると思います。園と小、小と中の教師のつながりをもつことが大事だと思いました。

かまいし絆会議 ～未来への第二步～

ラグビーワールドカップ2019™を終え、かまいし絆会議はまた新たな一步を踏み出そうとしています。閉幕イベントでの

「釜石の未来は私たちがつくり出す」の宣言のもと、釜石の未来を担う人間に成長していくために、自分達の生活を振り返り、よりよくしていくための活動を行っています。

《第2回本会議》

各小中学校の代表28名が集まった第2回目の本会議は、令和元年12月26日(木)に釜石市民ホールTETTOで行われました。

今回の会議より会長と副会長は、今後輪番制で中学生代表を務めることとし、この1年間、会長は釜石中学校2年正木快歩さん、副会長は同じく釜石中学校2年金野怡佳さんが務めることになりました。

話し合いは5つの中学校区に分かれて行われ、それぞれのグループで10年後の釜石の町がどんな町であってほしいか、その実現に向けて今自分たちができることは何かについて意見を出し合いました。来年度から取り組む具体的

な活動は、秋田県大館市の小中学生リーダーとの交流会でさらに考えを深めてから決定することになりました。



《防災行政無線を使用した長期休業中の帰宅の呼びかけ》

かまいし絆会議の新たな取り組みの一つとして、今年度の冬休みから防災行政無線放送を使って帰宅の呼びかけ放送を行っています。「決められた時間に帰宅し、明日も元気に過ごしましょう」というメッセージには、釜石の未来を担う自分達が、日々の生活を自分達の力でよりよいものにしていくという思いが込められています。

ます。

冬休み期間中は、中学生代表の声で計10回放送しました。春休み期間中は、令和2年3月19日(木)から小学生代表の声で計18回放送する予定です。市民の皆様のご理解をお願いします。

《釜石市・大館市児童・生徒交流会》

秋田県大館市の小中学校の代表で組織する「大館子どもサミット」12名との交流会は、令和2年2月7日(金)に釜石市民ホールTETTOで行われ、各小中学校の代表29名が参加しました。

交流会は、かまいし絆会議会長の正木快歩さんの歓迎の言葉、大館子どもサミット委員長の大館市立東中学校2年の福田詩乃さんの挨拶に続き、大館子どもサミットの取り組みの一つである「花いっぱいプロジェクト」で例年贈られているプランターの目録が贈呈されました。

その後の活動紹介では、かまいし絆会議からラグビーワールドカップ2019™に向けて取り組んだ約2年半の軌跡を写真や映像を交えて紹介しました。グループ交流会では、お互いの市の紹介や魅力ある公園とはどんな公園かといったテーマの話し合いでアイスブレイクした後、それぞれの町や

地域の良さを生かしたよりよい町づくりのために自分たちができることは何かについて話し合いました。

お互いが今後の取り組みを考えていく上で、有意義な交流会となりました。



《オーストラリア森林火災に関わる募金活動》

令和2年2月17日(月)～21日(金)、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた釜石市のホストタウン登録国であるオーストラリアが見舞われた大規模な森林火災の復興に少しでも役立ててもらうため、全小中学校で募金活動を行いました。

集まった募金は釜石市を通じて送られます。

令和2年度 教育行政方針

令和2年3月釜石市議会定例会において、佐藤功教育長が述べた主な内容をご紹介します。

「三陸の大地に光り輝き希望と笑顔があふれるまち釜石」を目標とし、復興に向け市民一丸となつて取り組んできた、釜石市復興まちづくり基本計画「スクラム釜石復興プラン」は、いよいよ完遂の年を迎えます。

教育委員会におきましては、この9年間、釜石市の真の復興と将来の豊かなまちづくりには、それを担っていく子どもたち「強く生き抜く力」を育成していくことが肝要であると捉え、具体的には、子どもたち一人ひとりが元気に意欲をもって学ぶ姿が、子どもたち一人ひとりの明るい笑顔あふれる学校の姿が、地域・市民の生きる希望や光となるよう、釜石の豊かな自然環境、深い文化、優れた地域人材を積極的に活用しながら、強く生き抜く子どもを育てるまちづくりに取り組んでまいりました。

2019年9月25日、「ラグビーワールドカップ2019™釜石」フィジー対ウルグアイ戦直前に、市内全小中学生

2200名による「ありがとうの手紙」の歌声が鶴住居復興スタジアムの真つ青に輝く大空に響き渡りました。

これは、東日本大震災からの復旧・復興に対する子どもたちからの感謝の心を世界に送り届けようとするものでありました。子どもたちが自発的に歌いだし、やがて会場の子どもたち全員に広がっての圧巻、感動の大合唱でありました。

それは、これまで培われてきた「伸びたい・高まりたい・人のためになりたい・値打ちある生き方をしたい」という学びへの意欲をふくらませ、生きる希望に向かう釜石の子どもたちの成長の姿でありました。まさに、三陸の大地に光り輝き希望と笑顔あふれる釜石の姿でありました。

改めて、釜石の子どもたちは「真に掛けがえのない宝もの」であることを、釜石の子どもたちには「学びへの深い底力がある」ことを、釜石の子どもたちは「夢と希望を限りなく求めて止まない命」であることを深く実感させられたところがあります。教育委員会としてこれはラグビーワールドカップ2019™釜石

開催の大きなレガシーでもあると捉えております。

復興まちづくり基本計画の最終年に当たる令和2年度、教育委員会及び各学校教職員は、「子どもは掛けがえのない命」というこのレガシーをこれからも釜石市の学校における教育指導上の根本理念として捉えて、その上で、釜石の全ての子どもたちがますます生きる夢と希望をふくらませ、逆境に負けない頑張る心を培っていくことができるよう、「強く生き抜く力」の育成の展開に取り組んでいくことが重要と捉えております。

また、その展開に当たっては教職員の優れた指導力が必須であります。特に、教職員一人ひとりが子どもたち一人ひとりの状況や願いを受け止め、個に適切に対応できるようにしていく必要があります。言い換えれば教職員が子どもとしっかり向き合い、一人ひとりを大切にしたい授業実践ができるようにすることが求められます。教職員の授業指導力量向上・練磨が図られるよう教職員の研修時間の確保や働き方における環境整備にも積極的に取り組んで参ります。

施策の概要

- 1 学校教育の充実
 - (1) 家庭・地域と連携・協働した教育活動の推進
 - (2) いのちの教育の推進
 - (3) こころのサポートの推進
 - (4) 豊かな心の育成
 - (5) 基礎基本の学力の定着と向上
 - (6) 健やかな体の育成
 - (7) 特別支援教育の充実
 - (8) 生徒指導の充実
 - (9) 幼保小の連携の充実
 - (10) 社会の変化に対応した教育の推進
- (1) 教職員が子どもに向き合う時間の確保
- (2) 学校給食の充実
- (3) 学校施設の整備
- 2 文化財の保存・保護・活用
- 詳しくは、市ホームページをご覧ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応

3月3日(火)から各小中学校は春休み開始日の前日まで臨時休業としております。

※3月19日(木)までは全小中学校で臨時休業中と同じ対応。

※2月29日(土)から春休み終了日まで部活動は禁止とする。

卒業式は各小中学校実施予定日に卒業生・保護者・教職員のみで縮小内容で実施。

※市内で感染者または濃厚接触者が発生した場合は中止する。

修了式・離任式は実施しない。

「わが家の献立」入選作品決定

「わが家の献立募集」表彰式が令和2年1月22日(水)教育センターで行われました。

この事業は、家庭でメニューを考え料理を作ることを通して、自然や食べ物への関心と、食に関わる人々への感謝の心を育み、生涯にわたって自己の健康管理ができる児童生徒を育てることを目的としています。

今年度は、食べ過ぎを防ぎ、肥満予防にもつながる「かみかみ食材を使った料理」をテーマに献立を募集したところ、工夫を凝らした44点の応募をいただきました。入選作品は次の通りです。

【最優秀賞】

「ちようかんたん！
てりやきれんこんばーぐ」

釜石小学校1年
元 持 玲 音さん

【優秀賞】

釜石小学校6年
菊 池 彩 芭さん

釜石小学校6年
志土富 翼さん

鶴住居小学校1年
橋 本 瑞 生さん

【佳作】

鶴住居小学校2年
橋 本 姫 奈さん

釜石小学校5年
泉 澤 華さん

釜石小学校5年
志土富 葵さん

【学校賞】

釜石小学校6年
工 藤 純之助さん

釜石小学校6年
山 崎 春 翔さん

釜石小学校6年
後 藤 和 心さん

釜石小学校

この作品の中から分量等を調整して学校給食に取り入れていきます。

給食センター完成



新しい学校給食センターが完成しました。

新施設は鉄骨造2階建てで、安心・安全な給食を提供するためHACCP（ハサップ）の手法を取り入れ「学校給食衛生管理基準」や「大量調理施設衛生管理マニュアル」に適合した施設となっており、令和2年4月から市内小中学校全14校へ給食提供を開始します。

〔概要〕

- ・アレルギー食調理室を設置
- ・食育情報発信の場として施設見学会・試食会を実施
- ・既存設備を活用した災害時等炊き出し可能な部屋を設置
- ・太陽光発電等を導入し環境負荷を低減

文化財通信

釜石市指定文化財（新規）

令和2年2月25日（火）に「仮宿 三貫嶋神社鰐口」と「釜石鉾山山神社山神碑」が釜石市指定文化財となりましたので、皆様にご紹介します。

「仮宿 三貫嶋神社鰐口」

箱崎町第4地割仮宿の三貫嶋神社に奉納された鰐口で、神社に至る参道の休み場に吊下げられており、今でも御参りの際に鳴らされています。鰐口は、往古より打ち



三貫嶋神社鰐口（背面）



三貫嶋神社

鳴らすことで誓願成就を祈念するために設置され、鈴を扁平につぶした形をしています。指定された三貫嶋神社鰐口の背面には記銘があり、上部に「奉納御宝前」、右側に「奥州南部戸郡箱崎浦苅宿与助」、左側に「明和五戊子年四月十六日」と線刻されています。明和5年は1768年の元号ですので、江戸時代後期にあたります。記銘があることで、この鰐口が奥州南部の箱崎村仮宿の与助さんが明和5年4月16日に神社に奉納したことが読み取れます。

「釜石鉾山山神社山神碑」

甲子町第1地割大橋の釜石鉾山山神社社殿の傍らに所在しています。山の神様である山神は製鉄や採鉱に携わる人々の安全祈願のため、古くから信仰されていました。

釜石鉾山山神社境内には多数の山神碑が所在しますが、今回指定となった山神碑は、正面に「山神」、左側面に「安政丁巳年仲冬」と文字が刻まれています。「安政丁巳」は安政4（1857）年、「仲冬」は11月のこととなります。

皆様ご存知のとおり、釜石発展の礎を築いた「近代製鉄の父」大島高任は、安政3（1856）年、山田の豪商貫洞瀬左衛門および大



釜石鉾山山神社

樋通御給人小川惣右衛門と相談の上、同年11月高炉建設を藩に願い出しました。安政4年11月に甲子町第1地割大橋に高炉1座を完成させ稼働を開始し、同年12月1日に鉄鉱石による最初の出鉄が行われました。

本山神碑は、釜石市近代産業の歴史の始まりを知る上で重要な歴史資料になり得るもので、大島高任等の高炉建設の実体を調査する上で貴重であり、釜石発展を示す先人の歩みを後世に伝えるものであることから、釜石市指定文化財となりました。

なお、本山神碑の所在する釜石鉾山山神社のお祭りは、現在も地元の方々が多く訪れ賑わいを見せています。



釜石鉾山山神社山神碑